

があるので澄明度を保つという。この目的にはピロリン酸、テトラリン酸のナトリウム塩 (0.5~3%) や、近年ではキレート剤 (エチレンジアミン・テトラリン酸・四ナトリウム塩) の添加が行われる。またロート油の添加も行われる。

消毒剤を添加して消毒用石鹼も作られる。

原料油脂はヤシ油、パーム核油、大豆油、落花生油、ヒマワリ油、棉実油、オリーブ油、ヒマシ油のほか、ステアリン酸、オレイン酸などの脂肪酸が用いられる。アルカリは多く水酸化カリウムが用いられるが、トリエタノールアミンも用いられる。これに炭酸カリ、グリセリン、砂糖などを加えて粘度を調整する。

製造例

| | | | |
|-----------|------------------|-----------------|--------|
| (1) パーム核油 | 250 kg | 水 | 800 kg |
| ヒマシ油 | 50 " | グリセリン 28° Bé | 50 " |
| 水酸化カリウム液 | 50° Bé 140~145 " | 香料 | 適宜 |
| (2) ヤシ油 | 100 kg | 水酸化カリウム液 50° Bé | 85 kg |
| ヒマワリ油 | 60 " | グリセリン | 100 " |
| ヒマシ油 | 30 " | 炭酸カリウム液 5° Bé | 535 " |

鹼化は半煮沸法で行う。鹼化の終末は次の様に試験する。石鹼液の一部を採って蒸留水に溶かすに、濁りを生ずれば鹼化不十分であるのでアルカリを追加する。またフェノールフタレインに対し暗赤色を呈すれば、遊離アルカリの存在を示す故に、ヤシ油あるいは脂肪酸を追加し、鹼化後フェノールフタレインに対しバラ色を呈する程度に到らしめる。

石鹼液は澄明であるのが望ましい。約 50° に冷却した後、香料を添加し、放置して熟成させ、要すれば濾過する。

| | | | |
|------------|--------|-----------------|---------------|
| (3) ヤシ油脂肪酸 | 500 kg | 水酸化カリウム液 50° Bé | 270 kg |
| ヘキサリン | 125 " | 水 | 1,300~1,800 " |
| メチルヘキサリン | 125 " | | |

4. 浮石鹼 Floating Soap

浮石鹼は石鹼中に気泡を含ませて比重を水より軽くしたもので、主として

浴用石鹼に用いられる。塩析法による石鹼素地を攪拌器に入れ、やや冷えて粘稠になった時には、はげしくかきまぜて細密な気泡を含ませ、そのまま放置固化させて、ワク練石鹼の仕上工程に準じて仕上げる。塩析しない石鹼素地からも製することが出来るが良品は得難い。

また上記の工程の攪拌中に、脂肪酸と重炭酸ナトリウムを加えて炭酸ガスを発生させてこれを包容させる方法もある。

浮石鹼は一般に純白色である。

5. 薬用石鹼

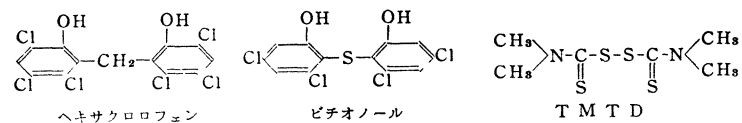
これは薬局方の薬用石鹼やカリ石鹼ではない。良質の化粧石鹼素地に、皮膚刺激性のない緩和な殺菌剤で、残留効果のあるものを配合した薬用石鹼が近年行われている。この型のものは手洗い、洗顔用に好適である。

殊にオシメカブレの予防、湿疹の予防、手当用として赤ちゃんの洗浄料として小児科でも賞用せられる。またニキビの予防、手当料として洗顔用に有効である。その殺菌剤として主なものは次の様である。

ヘキサクロロフェン Hexachlorophene (G 11), bis (3, 5, 6-trichloro-2-hydroxyphenyl)-methane

ピチオノール, Bithionol (G 58, Actamer), 2, 2'-thiobis-(4, 6-dichloro phenol)

TMTD, Tetramethyl thiuram disulfide, (Thiram, Alasan)



これらの殺菌剤の配合された石鹼を使用すると、普通の化粧石鹼を使用した時よりも、一時的あるいは恒常的に皮膚上の細菌数が著しく減少することが、多数の実験例で示されている。一回の使用で効力は数日間続くことが示されているが、実際に有効であるためには連用することが必要である。

これらの殺菌剤は石鹼だけでなく、化粧水、ハンドローション、クリーム、ヘヤーローションなどに配合せられている。